



記録

ともげいじゅつのむら
Village d'Art pour les Enfants

5周年記念展 スイスからの贈り物

「つくる、つどう、つなぐ」をコンセプトに、「こども芸術の村」プロジェクトの過去5年間の活動を総括し、次の5年につなげるための参加体験型の展覧会&ワークショップを開催。1088名の方々にご来場いただきました。

[日時] 2018年11月23日(金・祝)~25日(日) 10:00~18:00

[場所] せんだいメディアテーク 5階ギャラリーa
 入場無料 *一部公募ワークショップは有料

The 5th Anniversary Exhibition

2011年という年が日に日に遠くなればなるほど深く心の底から疼きとともに沸き上がってくる言葉があります。その年の暮れに石巻の市役所広場で京都や信楽から運んだ食器を配っていた時、なぜか綺麗な磁器製品ではなく、学生や陶工の焼いた土臭く、いびつな器を手にする人たちが多く見られました。水不足も伝えられていた最中でしたから磁器の方が扱いやすいです。よと勧めたところ「この土の温かみが一番のご馳走です。」という声が返ってきてハッとしました。いびつでも手でひねったものの温もりが人の心まで温めることができるんだ。あの言葉があったからこの「こども芸術の村」の活動を今日まで続けることができたのだと思います。その言葉の魔法を習うために土をこね、木を削り、紙を漉いたり、パイを焼いたり、気づけば5年経っていたという魔法の村のこどもたちの記録です。

こども芸術の村 村長 松井利夫



場内は、展示スペースとワークショップスペースに分けられ、展示スペースでは、これまでに開催された14種類のワークショップの説明文や写真が、使用された道具や素材、試作品、完成した作品などと一緒に展示されました。ワークショップスペースでは、こども達に人気のワークショップが日替わりで開催されました。展示物を見るための決められた順路や動線がないだけでなく、展示什器の足元が三角形のトンネルになっており、こども達が自由にぐり抜け、いろいろな視点や角度から展示物を見ることができるようになっています。また、折り紙や水引、雄勝石などの素材を自由に使えるものづくりの場も併設することで、「みんなで作る塔と壁」に思い思いに絵を描いたり、つくった作品を貼り付けたりと、時の経過と共に手が加えられ、変化、成長していく展示会となりました。

The 5th Anniversary Exhibition



展覧会期間中、会場内のワークショップスペースにて、
こども達に人気の4つのワークショップを日替わりで開催しました。

3 ほってえ皿制作体験 ワークショップ

..... 2018年11月25日(日) 10:00~12:00

- 講師: OGATSU x (石巻市立雄勝小学校のこども達)
- 対象: 来場者 ■ 参加人数: 100名

石巻市立雄勝小学校のこども達が立ち上げた仮想の会社「こども芸術カンパニー」が、地域資源を活用して商品開発をおこなった、雄勝石粉を粘土と釉薬に混ぜたホタテ型のお皿「ほってえ皿」の制作体験ワークショップです。3年目の活動として、様々な場所で色々な人達と、リレー方式によるワークショップをおこない、開場前から行列ができていました。

※展覧会期間中、せんだいメディアテーク1階にある「KANEIRI Museum Shop6」において、雄勝地域の方々が制作した「ほってえ皿」の限定販売がおこなわれ、売上の一部は、雄勝小中学校の芸術活動に還元されました。



4 秋田の木遣いと作る箸・箸置き ワークショップ

..... 2018年11月25日(日) 13:00~18:00

- 講師: 小玉順一(小玉建具店 代表/箸作り担当)、佐藤友亮(佐藤木材容器 代表/箸置き作り担当)
- 対象: 小学生 ■ 参加人数: 24名

毎日使う箸、こどもには特別感のある箸置きを天然秋田杉で作るワークショップ。箸作りは、小玉先生のサポートで鉋削りに挑戦。箸の形が現れたら角を落として仕上げました。箸置きでは不要になった木片を活用。箸を収める窪みが付いた様々な形を、佐藤先生と木の手触り、香りを楽しみ、ヤスリで削りました。シンプルな素材、手順に五感を刺激する要素が盛り沢山でした。



Workshop

1 ガレット・デ・ロワ(前半)オリジナルフェーブの制作ワークショップ

..... 2018年11月23日(金・祝) 10:30~13:00/14:30~17:00

- 講師: 松井利夫(陶芸家/京造形芸術大学 教授/こども芸術の村 村長)、亀山英児(陶芸家/三輪田窯)
- 対象: 原則小学生4年生~6年生及び中学生 ■ 参加人数: 40名



5回目となる恒例のガレット・デ・ロワの前半、フェーブづくりをおこなうワークショップです。土偶型やボタン型のフェーブを使った色塗りの練習の後、粘土と釉薬を使って成形から着色までをおこない、思い思いのオリジナルフェーブをつくりました。果たしてどんな仕上がりになるのでしょうか?! 今から待ち遠しい様子のこども達の姿が見られました。

2 祝いこけし ワークショップ

..... 2018年11月24日(土) 10:30~17:00

- 講師: 櫻井尚道(こけし工人/桜井こけし店)
- 対象: 原則小学生3年生~6年生 ■ 参加人数: 7名



伝統こけしを水引で結んだ創作こけし「祝いこけし」づくりを通して、こども達と一緒に「伝統」や「祝い」という儀礼について考え、縁起物のこけしの新たなスタイルをつくりあげていくワークショップです。今年度で3年目となります。完成した祝いこけしは、さっそく会場内の祝いこけしブースで展示され、来場者の注目を集めていました。

**FONDATION
ENFANTS
DU JAPON**
財団 日本の子供たち

Village *de l'art pour* les Enfants
とも
げいじゅつのむら

「とも芸術の村」とは

2011年3月11日の東日本大震災の際、日本に滞在中だった、ティエリー・セルヴァン氏とカロリーヌ・カファン氏により、同年7月、スイスにおいて財団「日本の子供たち」が設立されました。同財団は、芸術を通して、東日本大震災が子ども達にもたらした身体的、精神的負担を緩和し、子ども達がさまざまな芸術文化活動に目覚め、多くの人々と一緒にこれらの活動に取り組むことができるようにしたいと考えていました。そして、出会いと希望をもたらす場で、子ども達が、夢と新しい未来を手に入れることを願っていました。



同財団の方針を受け、京都造形芸術大学及び東北芸術工科大学を運営母体とする「とも芸術の村」プロジェクトが発足。2017年度からは、京都造形芸術大学による単独事業として、企画・運営されています。

2019年3月発行

発行元「とも芸術の村」プロジェクト

- 統括責任者・監修 松井利夫 (村長 / 京都造形芸術大学 教授)
- 現地責任者・企画・文・写真 早川欣哉 (副村長 / 京都造形芸術大学 准教授)
- 会場設計・展示計画 渡邊 武海
- 展示テキスト編集 清水チナツ
- フライヤーデザイン 伊藤 裕
- 事務局 稲葉 雅子 (株式会社たむすび)、倉茂 麻子
- 記録集デザイン 根 朋子
- 制作・展示スタッフ (順不同) 川村智美、村上美緒、吉川理香、田桑礼子、伊藤結子、阿部 祐希、
佐藤優作、三澤一弥、尾暮祐樹、森川玲捺、大友彩可、早川昌子、
五十嵐帆奈、鎌田和紀、三品しずく、中村萌音、福井友希乃、戸村美里

お問い合わせ 「とも芸術の村」プロジェクト村役場
〒984-0075 宮城県仙台市若林区清水小路6-1 東日本不動産仙台ファーストビル1F
<http://av4c.jp/> info@av4c.jp

Copyright©2019 The Art Village for Children Project Printed in Japan



展示什器は、当展覧会による廃棄物をなるべく減らすことを目的に、再生可能な素材であり、子どもでも簡単に扱える身近な素材でもあるダンボールを使用し、スタッフがDIYで制作しました。
展覧会終了後には、専門会社によってリサイクルされたり、認定こども園や小学校などでリユースされたりしています。